

みどりをはぐくむパートナー

まちとみどり

いろいろ
「彩を未来へ」



特集

一般社団法人 福岡県樹木医会

3 舞鶴公園の桜を元気にする活動

特定非営利活動法人 はかた夢松原の会

5 博多湾周辺の松原の復元を目指して

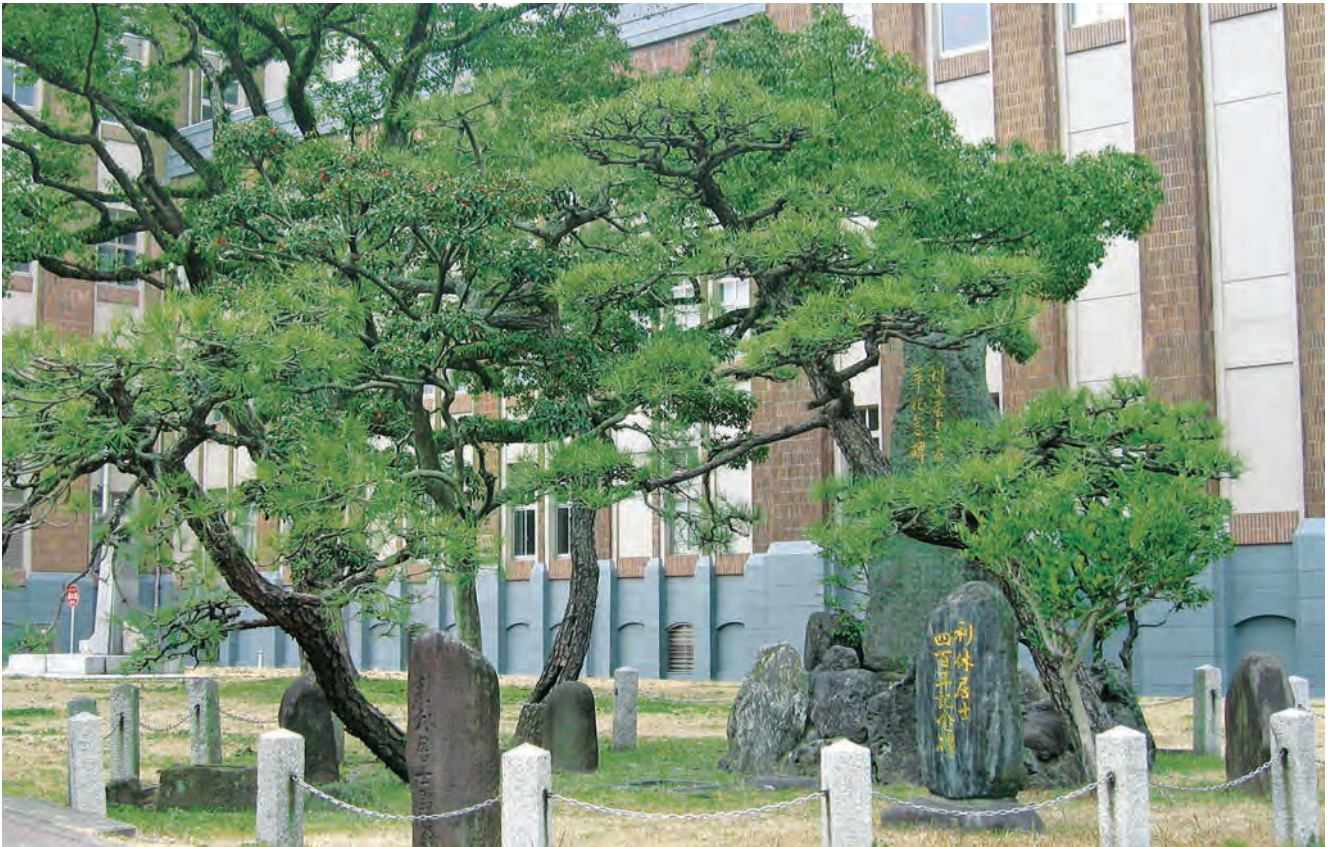
- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 福岡の名花名木 | 9 緑のコーディネーターとは？ |
| 2 グリーントーク | 11 緑の活動支援事業のご案内 |
| 7 グリッピーキャンペーン | 12 緑化助成のご案内 |
| 8 さくらまつり・花しるべ | 13 花と緑のまちかど写真コンテスト |



九州大学医学部構内

利休釜掛の松

松の枝に茶釜を掛けて湯を沸かす風流。
ふすんだ(くすんだ)煙が、「ふすべ茶」の謂れです。



利休釜掛の松
福岡市東区馬出
(九大病院内)
地下鉄馬出九大病院
前駅より徒歩約6分。



東区の九州大学医学部構内の一角に、かの千利休が茶釜を掛けたといわれる松があります。それが「利休釜掛の松」です。

案内によると、天正15年(1587)豊臣秀吉は薩摩の島津軍を降伏させた帰途に、来たるべき大陸進軍の基地として肥前(名護屋城)を整備するため、博多(筥崎宮)に20日あまり滞在し、しばしば茶会を催しました。その際、秀吉の命によって茶をたてた千利休は、箱崎松原の松の枝に鎖を掛けて雲龍の小釜を吊り、白砂の上に散り敷かれた松葉をかき集めて湯を沸かしました。

茶会には、利休と並んで茶の三大宗匠の一人であった津田宗及や黒田藩祖・黒田如水の叔父にあたる小寺休夢(こでらきゅうむ)、神屋宗湛(かみやそうたん)らが座を連ねて和歌を詠じたとのこと。

貝原益軒の「筑前国続風土記」には「今も其所に老松十株許あり。其松を後人利休松と称す。其辺の松原を御茶屋松原と名付く」とあり、現在の場所よりも250mほど東側だったようです。湯を沸かすための松葉のふすんだ(くすんだ)煙の立ち上る様はなんとも趣があったとのこと。これを「ふすべ茶」といい、野点の始まりと言われていました。

後に「太閤の町割り」として知られる博多のまちの復興事業は、この箱崎滞在中に秀吉に指示されたもの。「釜掛の松」に400年前の往時を偲ぶのも一興です。

人形づくりでも、日々の暮らしでも
緑や自然とは切っても切れない関係です。



カイズカイクキに囲まれた工房。創作意欲を掻き立ててくれます



高さ2.2m、相撲人形「雷電」



▲ひな人形
「朧月」(おぼろつき)

◀胡粉・本金箔・本朱で
仕上げたひな人形
「吉祥雛」(きつしょうびな)

高さ9.99メートルの巨大な 「なまはげ」

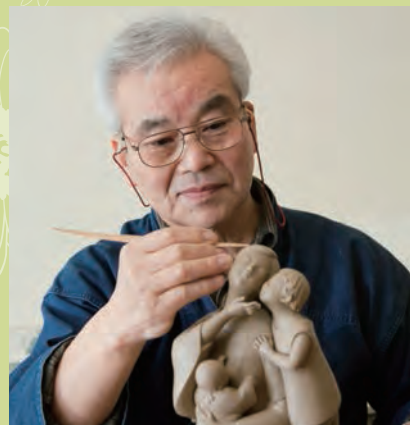
なまはげの迫力をリアルに再現できる人形師を探していた秋田県男鹿市が「ぜび」と依頼。これに応じて9.99メートルの立像を友人の特殊造形会社と協力して2002年2月に完成させたもの。立像は日本海を一望する石段の入口付近に据えられている。

依頼のきっかけは、1988年、稲富さんが展示会のために「なまはげと驚いて逃げ出す子どもたち」の人形を制作し、その後、同市に寄贈していたことから。

9.99メートルの由来は、同市鮎川港の「鬼が作った」と伝えられる999段の石段にちなんだもの。



迫力満点の「なまはげ」



博多人形 伝統工芸士 稲富 昭満

博多人形師として半世紀。古風から 斬新まで多彩。

佐賀の有田焼の窯元が実家なのですが、子どものときから博多人形師になることを決められていて、何の疑いもなくこの道に入りました。15歳のときに入門して修業を積み、7年後に現在の場所、早良区内野に「昭満人形」を創設しました。以来、半世紀近く。さまざまな人形を作ってきました。時代性や住宅事情を意識して、また、自分の創作テーマに沿って、あるいはアイデアや閃きのままに…古風なものから斬新なものまで実にいろいろです。力士「雷電」の等身大人形や巨大な「なまはげ」も作りました。昭和61年、62年に内閣総理大臣賞をいただき、この年に伝統工芸士の認定を受けました。そして、昨年末、3度目の内閣総理大臣賞をいただきました。

自然は感性を刺激し、創る意欲を掻き立てる。

創作するうえで、自然や緑はなくてはならないものです。ここは設立当時(1960年代初め頃)、すぐ裏手に山が迫り森の中という環境でした。慌ただしい街の中と違って、緑の中にいると気持ちが落ち着きます。特に緑が生い茂った樹々の中では鳥の啼き声が響き合って本当にいいです。野性の動物もいて、最近まで猿や穴熊、それに鴨もいましたね。山は削られて宅地になってしまいましたが、今でも四季折々の趣があり、冬に雪が降れば背振の山に登りたくてじっとしてられないくらいです。こうした風情が、創作意欲を掻き立ててくれるんですね。刺激されてイメージが膨らむというんでしょうか。人形師は常にイメージを追い求めているわけですが、自然が感性を磨いてくれる、そんな気がしています。

創作から離れても、田舎育ちで小さい頃からいつも山に登っていた私にとっては自然や緑から離れることが出来ないようです。一度街に出てみたのですが、やはり駄目で、すぐに同じ場所に戻ってしまいましたから。



「蘇武と李陵」

新作のイメージは、緑の中で微笑む羅漢さん。

これからの博多人形づくりは、土人形の原点に立ち戻らなければならないかと思っています。眺めるほどに味が出てくる。そういうものが「本物」と言えるのではないかと…。とことん作り込むのではなく、力を抜いて、感性を活かして、ですね。で、今考えているのは羅漢さん。イメージは「植え込みの中で、喜怒哀楽の表情豊かに、自由に遊ぶ羅漢さん」です。やはり緑ですね。緑や自然の中でなくて、いきいきとした表情になりません。



舞鶴公園での桜開花調査を行う福岡県樹木医会



特集 一般社団法人 福岡県樹木医会

舞鶴公園の桜を元気にする活動

毎年美しい姿で市民の心を和ませてくれる舞鶴公園の桜。しかし、樹木の専門家である樹木医の目には、心配なことがいろいろあるようです。

舞鶴公園の桜を元気にするための「福岡県樹木医会」の取り組みを紹介します。

最高に美しい。そのとき、すでに元気は下り坂になっている。

——活動のきっかけはどのようなことからですか？

【森】舞鶴公園の桜は今、最高にきれいです。ということは、このままではこのきれいさが落ちていくだけということです。樹木医として、以前からその兆候が見え、どうにかしたいと思っていました。「弱っていく前に元気を取り戻し、さらに美しく咲いてもらうための手だてをしたい」と。そうした中で、平成22年春に「福岡城さくらまつり」がスタートしました。市の「景観と観光のまちづくり構想」の一環です。そこで私たち「福岡県樹木医会」は“舞鶴公園で100年の桜を作っていきましょう”と提案し、市の緑化推進課から「さくらの名所活性化検討業務」を委託され活動を始めることになりました。

【武林】まず、「舞鶴公園の桜自体がどうなっているのか、その実態を調べよう」ということで、平成23年春、桜が咲いたときから調査を開始しました。

——具体的にどのような調査をされたのでしょうか？

【森】基礎調査として、全体の半数に相当す

る約600本の桜の木についての「花の数」及び、「枝の数と枝の伸び方」を調べました。これらによって桜の木自体が元気なのか、弱っているかを判断するのです。

【武林】その結果として、全国平均に比べると、花の数が少ない状況であること、枝の数も少なく、また枝の伸びもあまり良くないことが分かったんです。その他にも色々なことを調べました。そういうデータを整理していくと、健康状態を数値的なもので表すことができ、何が問題かということが浮かび上がってくるわけです。

健康診断で分かったこと。土壤、栄養、密集度などに課題。

——どんな問題があるのでしょうか？また、その問題に対する対策は？

【森】一つは土壌の問題です。公園だから当然ですが、人が踏んで硬くなっています。それと栄養分が非常に少ないですね。もう一つピッチ、間隔の問題があります。かなり密になっていて桜の木同士で競うようになっています。桜の基本は大きく育てることなんです。陽をたくさん当てて大きく育てることです。ですが、今はちょっと密集し過ぎです。現在、舞鶴



森 陽一さん

公園の桜の70%がソメイヨシノなんですが、この種は特に横に広がる性質があるのでピッチが広くないと、枝を伸ばせず、本来の姿になれないのです。

試して、効果を見て、全体に拡げる。

【武林】対策としては、植え替えや治療、剪定、土壌改良、施肥などいろいろあります。今日メンバーが集まっているのは、土壌の改良のためです。まず、硬くなった土をほぐして、その後で肥料を継ぎ足します。と言っても、すべての桜に対してするのではなく、試験的に16本だけ行います。いろいろな手法を試し、結果を確認しながらそれを全体に広げていこうという



舞鶴公園の桜について熱く語る武林さんと森さん

ことです。そうやって、舞鶴公園全体の桜を元気にする計画をつくっているところです。

【森】きちんと目に見える結果を出すことで、提案するときに納得してもらえますから。今日の作業も、春の開花期には良い結果として出ると思いますよ。試験的ですが治療のための作業ですのでちょっと大掛かりです。これだけ大掛かりにするのは多分、桜が植えられてから初めてだと思います。こうした大掛かりな治療には樹木医が必要ですが、普段の手入れなら土を少し掘って施肥すればいいので誰にでもできます。将来的には地域の活動として継続していったらいいと思っています。

樹木医は、木の代弁者。 木の再生力を引き出す役目。

——「樹木医」について教えてください。

【森】樹木医とは、一言で言えば「木のお医者さん」。樹木の診断をしたり治療をしたり、後継樹の保護育成をしたり、また、樹木保護に関



武林 晃司さん

する知識の普及や指導を行う専門家です。樹木医になるには、樹木医資格審査に合格しなければなりません。そのために生物や植物についてはもちろんですが、地質とか気象とか木の歴史とかいろいろな分野のことを知らないといけません。

【武林】樹木医になってからも、常に勉強して新しい知識を身につけ、スキルも上げていかないとはいけません。今日の作業でも、土を掘る方法として新しいやり方を採用しています。今まで「掘る」と言えば、スコップとか機械で掘っていたわけですが、今日は「空気」で掘ります。これだと根を傷めることが少なくて済みます。木にやさしい方法です。

【森】私たち樹木医は「木の代弁者」と思っています。木は伝えたいことをカタチで出します。花が付かなかったり、枯れたり、腐ったり…。それをどれだけ早く気づくかということが大事です。初期治療で助かるのは、人間や動物と同じ。木が持つ生命力、修復力を手助けするのが私たち樹木医の役目です。そして、それが美しい桜を皆が永く楽しむことにつながるわけです。

目線の高さで、きれい！を感じる。

——10年後の舞鶴公園の桜に、どのようなイメージを描いていますか？

【武林】私は、「きれい」だけでなく「感動を与える花の風景」を目指しています。そのモデルづくりとして舞鶴公園の桜の元気の再生、復活をとらえています。これを10年位かけてやって結果を出し、そのノウハウを他の公園にも活かしていけたらと思っています。

【森】桜を「見上げるのではなく、目線の高さで愛でる」ことができたらいいと思います。子どもたちが遥か頭上を見上げるのではなく、すぐ目の前で見て、きれい！と感じられる桜にしたいです。それが、私にとっての舞鶴公園の桜の再生、復興の理想の姿なんです。今からの手だてで、それは可能だと思っています。



森 陽一(もり よういち)

一般社団法人 福岡県樹木医会 代表理事
日本樹木医会 福岡県支部 副支部長
樹木医として、樹木調査診断・治療、土壌診断・改良、樹木生育環境整備、植栽管理指導などに携わる。
株式会社 森園芸場 代表取締役



武林 晃司(たけばやし こうじ)

株式会社 イークラフト 代表取締役
樹木医、技術士(建設)として、公園、緑地、庭園、建築外構等のデザイン、緑を主体とした環境デザイン、緑に関する総合コンサルティング等を手がける。



空気で穴を掘ることで根を傷めることが少なくてすむ



硬くなった土をほぐして、その後で肥料を継ぎ足す



昨年の子どもさくら博士認定講座での一コマ



特集 特定非営利活動法人はかた夢松原の会

博多湾周辺の松原の復元を 目指して



都市化により消滅した松原を自分たちの手で復元しようと始まった「はかた夢松原の会」の活動は、今年で24年。松苗の植樹だけでなく環境、まちづくり、水と緑などをテーマにさまざまな活動を行っています。その取り組みについて代表の川口道子さんにお話をお聞きしました。

市民ボランティア団体として誕生。 「1株株主」の募金活動で展開。

——はじめに「はかた夢松原の会」の活動を始められた経緯からお話ください。

【川口】福岡市の西北部には、かつて「筑前八松原」の一つに数えられた百道松原がありましたが、昭和60年代、その百道浜が埋め立てられ、人工海浜公園として造成されることになりました。そのことをきっかけに「自分たちの手で松を植え、白砂青松の美しい松原を復元しよう」と女性たちを中心とした市民運動が起こり、昭和62年に『はかた夢松原の会』が誕生しました。

——会が結成されてから、活動はどのように進みましたか？

【川口】何もない海岸線にこの手で緑の帯「夢の松原」を育てたいという熱い想いが皆の胸中に膨らみ、結成後の行動は迅速でした。まず、松苗の募金を全国に呼びかけました。そのために1枚千円の株券「緑の株券」を

発行し、それを買ってくださった「株主」には松ボックリを配当とするという仕組みを作りました。株主（募金をしてくださった方々）の名前はすべて、有田焼の陶板に焼き込んで松原の砂止めブロックに貼り付けるなどの工夫もしました。「自分たちの手で植えた松が育つ姿をいつまでも見続けていただきたい」との想いから出た発想です。

毎年1,000本、現在4万本超を植樹。 百道浜から博多湾に沿って拡大。

——ユニークですね。

【川口】そうですね。ユニークで親しみ深いアイデアが好評で、会員募集や植樹活動の継続も容易になり、大きく広がりました。以後、毎年1,000本の植林を行い、現在では4万本を超えています。毎年恒例の植樹会には、個人、団体、企業、行政と、大人から子どもまで、さまざまな人が参加し、植樹場所も福岡市東部の「海の中道」から西の「生の松原」まで、博多湾沿いに広がっています。このよう



な市民ボランティアの提案に行政が協力し、市民に喜ばれる海岸を創りあげたのは、当時ではあまり前例のないことでした。平成12年からはNPO法人（特定非営利活動法人）として活動を継続しています。

「つながっていく、つづいていく」を 合言葉に、さまざまな活動を展開。

——今では百道浜の松原は立派に成長し、海辺の憩いの場として親しまれていますね。「はかた夢松原の会」では、他に



植樹の様子

もいろいろな活動をされていますが、その思いをお聞かせください。

【川口】私たちは経済優先の社会の中で利便性を追求し、多くの自然を破壊してきました。快適な環境は生命の源です。自然とともに生きる生き方を模索しなければなりません。また、自然環境の大切さを次の世代になる子どもたちにきちんと伝えていかなければなりません。「反省を踏まえながら共に生きる生き方を考えよう」という思いから、生命の源である「水」、その水を運ぶ「川」や源流の「森」、さらには「海」や「都市」といったテーマで環境や自然について取り組んでいます。大事なことは、多くの人たちと考えること、そして実践することです。会では「つながっていく、つづいていく」を合言葉に「環境実践大学」「子ども環境



交流会」「水の感謝祭」「中国での環境保護林の植樹」「学生たちによる未来の提言・学生フォーラム」などさまざまな活動を行っています。

陸前高田市の松原復元を応援。募金活動を開始。

——東日本大震災で被災した陸前高田市の松原復元の支援にも取り組んでおられるということですが…。

【川口】福岡の松原の復元には、全国から多数の皆さまにご参加をいただきました。その恩返しとして何かなくてはならないという気持ちでいっぱいでした。そうしたときに、「高田松原を守る会」の鈴木会長から「陸前高田市震災復興計画の策定方針を定めるための検討会のメンバーに選ばれたが、どのようなことを踏まえて発言していくべきか、夢松原の皆さんにアドバイスをいただきたい」というお話をいただき、すぐに(平成23年8月)鈴木会長と意見を交換する会を持ちました。

——アドバイスとして、どのようなことを伝えられたのでしょうか？

【川口】高田松原の保全は、今や日本全体の問題です。子どもたちのためにも高田松原の松の復元に力を尽くしていただきたいと申

上げました。「松原を育てることは、夢と愛を育てること」という私たちの想いを伝えたかったのです。そして埋め立て地に松林を生み出した「はかた夢松原の会」の手法を、高田松原の復元の参考にしていただけるのではないかとことも申し上げました。

松はどこにでも植えられるものではありません。土壌、気候に左右されます。地元の人たちが知恵を出して、丹精を込めて幼苗から育てることによって初めて松原の復元が実現します。その土地に松が根付くかどうかは、人がどれだけ丹精を込めて育てるにかかってくるからです。「種、苗の育成と管理」と「市民運動として根付かせること」が大事です。そして一方で、行政の理解と協力を得ることも重要でしょう。

——「はかた夢松原の会」では、今後具体的にどのような支援活動をされるのでしょうか。

【川口】私たちが実際にお手伝いできることは、松原再生のための募金活動と、将来的には現地での松の植樹活動だろうと思います。復興まちづくりの全体像がまだ決まっていませんから、松原の復元は場所や方法も現在未定です。そのときに備えて、当面は募金活動に力を入れていきたいと思っています。



とどけよう♥緑の絆

グリッピキャンペーン 2011

「とどけよう♥緑の絆」をテーマにグリッピキャンペーン2011を10月29日(土)、30日(日)の2日間、アイランドシティ中央公園で開催しました。

期間中は、「ありがとうの緑」の絵の作品展示や発表会、緑のコーディネーターによる押し花工作体験講座など、緑に親しむ様々な催しがあり来場者に楽しんでいただきました。また東日本大震災復興のための募金や、復興米の販売も行いました。

2日間ともあいにくの天気でしたが、連日たくさんの方にご来場いただき、とてもにぎやかなイベントとなりました。

「ありがとうの緑」の展示



グリッピ絵本の描き方講座



キッズフリーマーケット



カボレジャーショー



ハンギングバスケットによる展示



ハンギングバスケットのチャリティーオークション



花づくり団体による花壇コンテスト



たくさんのご来場
ありがとう
ございました。



宮城復興支援センターの復興米も販売しました。





福岡城さくらまつり

春になると約1,000本の桜が咲き誇る舞鶴公園は、鴻臚館や福岡城、そして平和台野球場といったそれぞれの時代の象徴が幾層にも重なった歴史的にも非常に貴重な意味を持つ公園です。桜花爛漫うらかなこの季節に、城跡と桜のライトアップを通して、福岡城400年の歴史と、福岡を愛した人々の想いをお伝えいたします。

日時

平成24年3月24日(土)～4月8日(日)

(ライトアップ期間 3月28日(水)～4月8日(日))

※さくらのライトアップ期間は開花状況により変更する場合があります。

場所

国指定史跡「福岡城跡」(舞鶴公園)

インフォメーション開設時間

[平日]11:00～22:00 [土・日]10:00～22:00

ライトアップ点灯時間

18:00～22:00



- ・スタンプラリー開催
- ・さくらグルメ屋台出現
- ・多間櫓特別ライトアップ(入場料 300円 お茶菓子付き)



福博花しるべ

まちをたくさんの花でいっぱい!

博多駅から天神の警固公園までを10万本のチューリップで結ぶ「福博花しるべ」。天神のど真ん中、福岡市役所西側ふれあい広場ではガーデニングショーを開催! この春は、福博のまちなかを、見て・歩いて・楽しんでください!

見頃の期間

平成24年3月下旬～4月中旬

福博花しるべ ガーデニングショー

期間

平成24年4月7日(土)～4月15日(日)

会場

福岡市役所西側ふれあい広場

- ・団体等による花壇展示
- ・市民参加のガーデニングコンテスト
- ・ハンギングバスケットコンテスト
- ・ワークショップコーナー
- ・イベント
- ・カフェコーナー
- ・ガーデニングショップコーナー



緑

green coordinator

のコーディネーターとは？

こんなとき緑のコーディネーターをご活用ください。

市民と行政が共働して快適で美しい緑のまちづくりを進めるため、花や緑に関する知識や技術を持つ人を福岡市が認定し、市民が自主的に取り組む緑化活動を支援する制度です。

現在163人が認定され、「緑のコーディネーター」として緑のまちづくり活動や公民館・小学校などの自主企画事業の講師や指導者として活躍しています。



公民館で実施する花づくり教室の講師を探している



町内美化活動の一環で花を植えるので、選び方や植え方を相談したい



地域の公園で木に名札を付けたいので、木の名前を教えてください



町内の空き地を利用して、グループで緑化活動をしたいので活動計画のアドバイスをしてほしい



子どもを対象に木の実や葉っぱを使ったクラフトづくり教室をやるので教えてください



地域の子供達と一緒に花を植えるので指導してほしい

福岡市緑のコーディネーター登録リストを各公民館、市民センター、区役所企画課などにおいてあります。協会ホームページでは、緑のコーディネーター検索システムを用意しています。

<http://www.midorimachi.jp> どうぞお役立てください。

緑のコーディネーターになるには？

「福岡市緑のコーディネーター養成講座」を修了し、認定審査に合格する必要があります。

次回開講は平成25年度です。

受講を希望される方は、緑を通じたボランティア活動、地域活動などを経験されることをお勧めします。

■問い合わせ先

緑のコーディネーターの紹介・相談について

(公財)福岡市緑のまちづくり協会 みどり課

TEL:092-822-5832 FAX:092-822-5848

緑のコーディネーター制度について

福岡市住宅都市局 公園緑地部 緑化推進課

TEL:092-711-4424 FAX:092-733-5590

緑のコーディネーター紹介



砥上 久美子さん

砥上さんは大の花好き。50歳になったとき、本格的に花の仕事をやっていきたいと考えて、グリーンアドバイザーになりました。「花どんたく」が開催されたときにはグリーンアドバイザー“花と緑の相談員”として参加。さらにその年にできた「緑のコーディネーター制度」に挑戦し、以来花のボランティアとして少しずつ活動しています。

福岡市博物館で、正面玄関両脇の花壇の手入れをされている砥上さんを訪ねました。「昨年、友人と博物館を訪れたとき、外国の観光客らしい人が写真を撮っていたのですが、背景となる花壇がさびしく、もっと花があれば…と思い、市に提案して活動を始めました」とのこと。作業は月1回、朝10時から。伺ったときは「この時期(冬季)は、土づくりが大事」と、土に腐葉土を混ぜ込み、そこに乾燥に強いオキザリスを植え込む作業に余念がありませんでした。

砥上さんはこの他にも、こども病院、大濠公園などを活動の場としています。また、緑のコーディネーターとしてかかわった最初の活動団体「花そうかい」のお付き合いも続いていて、月1回の例会の参加を楽しみにしています。「楽しく、長く」をモットーに、ずっと花とかかわっていききたいです」と話してくださいました。



寒い中、楽しく作業する砥上さん



▲この日花壇に植え込んだオキザリス
◀きれいに手入れされた花壇

緑のコーディネーター紹介



大野 侑子さん

市営地下鉄の沿線駅で、花と緑を植える活動を続けている「みどりちかまる」。その事務局長として活躍しているのが緑のコーディネーターの大野侑子さんです。はじめたのは4年前。「殺風景な地下鉄の駅前に花や緑を植えて、行きかう人々に心を和ませてもらうという想いからでした」と大野さん。現在メンバーは20人余り。活動の場は七隈線の8駅で、毎回

10人ほどのメンバーが月1回、各駅で作業をしています。その作業のスタート駅「橋本駅」を訪ねると、メンバーの皆さんが、花がら摘みや補植、追肥などの作業を、声を掛け合いながら和気あいあいとした雰囲気で行っていました。

大野さんが緑のコーディネーターになったのは、『花どんたく(2005年)』のボランティアに携わったあと、もう少し花とかかわってみたいと思ったからだそうです。「本気になったのはそれからでした。勉強するほどに新たな興味が湧いてきて…」と大野さん。現在は「みどりちかまる」の活動をメインに、「大濠公園ガーデニングクラブ」と「片江市民緑地グリーンメイトの会」(城南区市民センター裏手)の作業を行っています。緑のコーディネーターになって丸6年。「やり甲斐は、何と言っても仲間との絆、コミュニケーションです。今後も健康に注意しながら続けていきたいです」と話してくださいました。



メンバーと話し合いながら手際よく作業します



可愛い鉢植えが並んでいます



緑の活動支援事業

この事業は、市民のみなさんで結成された団体が自主的に取り組む緑化活動を育成・支援することにより、緑の普及啓発、地域の環境改善、地域コミュニティーの形成などを図ることを目的とするものです。

地域の花づくり

市内にある公共用地や空地などにおいて花壇づくりを行う活動で、花壇などの面積が10m²以上のもの

助成金	認定後5年間 年間1m ² あたり2,000円 上限20万円
	認定後6年目以降 年間1m ² あたり1,000円 上限10万円

地域の森づくり

市内にある樹林地などの保安全管理を行う活動で、活動区域の面積が300m²以上のもの。

助成金	認定後5年間 上限20万円
	認定後6年目以降 上限10万円

地域の森づくり活動団体

「三苦松林再生会」

自然を次世代に残したいから枝落としや草刈りなど、地域ぐるみで松林をケア。中学生による植樹も実施。



虫に強い「スーパー黒松」の苗

東区の「海の中道」の入口に当たる三苦地区では、玄界灘に沿って続く松林の“松くい虫”による被害をくい止め松林を再生させようと「三苦松林再生会」を結成し(平成9年)、地域ぐるみで活動を続けています。現会長の堺泰人さんによると、「江戸時代から200年を超える黒松の林は、戦後蔓延した松くい虫によって全滅しました。それを再生せねばと当時から町内役員や長老の方々の努力があり、時が過ぎてこの会の結成に至りました」とのことです。

主な活動は、福岡市立和白中学校の1年生約300人による植樹(2月)と、三苦校区内の住民の皆さんによる年間5、6回の枝落としと草刈り作業です。木が3mくらいに成長すると、松くい虫が入り枯れてしまう現象が一部に起きているため、現在は虫に強い「スーパー黒松」という苗を植えているのだそうです。「例年5月には松くい虫防除・消毒をしていますがそれでも、夏の猛暑で松くい虫が異常発生しますので、苦慮しているところです」と堺さん。「子どもの頃から親しんできた松林ですから、何とか再生させて次世代へ残したいです。地域の方々もそういう思いで協力してくださっていると思います」。活動を通して地域の繋がりも深まっているとのことでした。



昨年、和白中学校生徒との植樹の様子



定期的に行われる作業の様子

松くい虫 被害って何?



「松くい虫」の被害とは、正式には「マツ材線虫病」と呼ばれ、松を枯らす直接の犯人である「マツノザイセンチュウ」(病原体)とそれを健全なマツに媒介する運び屋「マツノマダラカミキリ」(媒介昆虫)の共同作業によって松枯れが発生し蔓延するものです。

緑化助成の ご案内

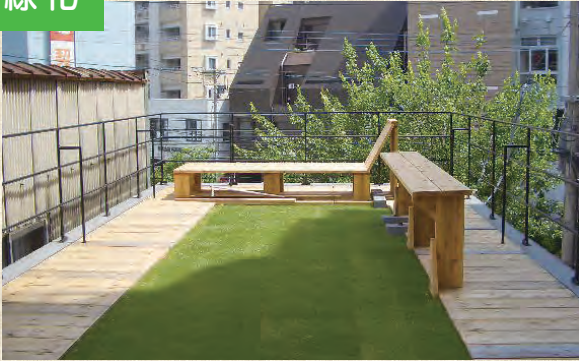
緑化助成事業

この事業は、建築敷地で生垣、壁面、屋上、駐車場などの緑化を行う方に対し、費用の一部を助成して、都市緑化の推進を図ります。

屋上 緑化

1m²あたり
助成金

10,000円



駐車場 緑化

1m²あたり
助成金

2,500円



生垣 設置

1mあたり
助成金

2,500円



壁面 緑化

1mあたり
助成金

500円

助成金の上限は
30万円です



以下の条件を満たす方が助成を受けられます

助成の条件

- ①市内の民有地にある建築物の所有者で、敷地面積が500m²未満であること
- ②緑被率が敷地面積の20%以上になること
- ③申し込み時に未着工で、年度内に完成すること

申請に必要な書類

- ①助成金交付申請書(様式は協会に用意しています)
- ②敷地面積が確認できる書類(建築確認済証の写しなど)
- ③緑化計画図(植物名・本数・面積などが記載されたもの)

公益財団法人 福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 企画推進係

TEL:092-822-5832 までお問い合わせください

申請書類は、ホームページからダウンロードすることもできます
<http://www.midorimachi.jp>

花と緑の まちかど写真コンテスト

第12回 花と緑のまちかど写真コンテスト受賞者発表

推薦



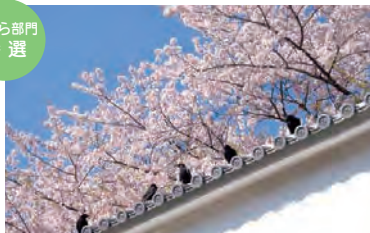
緑のトンネル 内田 善雄さん

くらし部門
特選



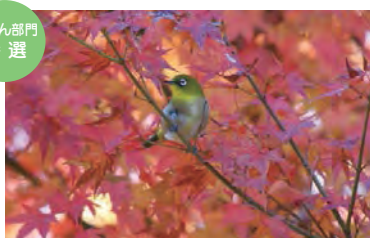
水辺のファンタジー 矢野 敬一さん

さくら部門
特選



カーコの花見 古屋 修身さん

しぜん部門
特選



晩秋 松山 正人さん

まちかど部門
特選



花の小道 白川 雄二さん

当コンテストは、花や緑に関する写真の募集や展示を通し、緑の普及啓発を図ることを目的に、平成12年度から取り組んでいるものです。平成23年度は過去最高の286点の応募があり、審査を行った結果、ここに紹介する25点の受賞作品が決定しました。皆様も身近な街のおもいがけない緑のスポットを再発見してみてくださいは…。

第12回 花と緑のまちかど写真コンテスト受賞者一覧

募集期間：平成23年4月1日～8月31日（敬称略）

賞名	画題	受賞者氏名	撮影場所	
推薦	緑のトンネル	内田 善雄	中央区赤坂	
くらし部門(6作品)	特選 (1作品)	水辺のファンタジー	矢野 敬一	大濠公園
	入選 (2作品)	まちかどの田んぼ	宮邊 政城	東区香椎東校区
		秋の野点	山口 早苗	楽水園
	佳作 (3作品)	初夏の頃	岡田 照秋	舞鶴公園
		日本のお茶発祥の地	小田 泰三	早良区脇山地区
		春の思い出	本田 優子	城南区片江中央公園
くらし部門(6作品)	特選 (1作品)	カーコの花見	古屋 修身	舞鶴公園
	入選 (2作品)	花筏	上玉利 健一	舞鶴公園
		桜道	八巻 洋	福岡市中央区
	佳作 (3作品)	はないかだ	江川 恭子	大濠(城内)
		桜花の頃	松尾 芳一	福岡城跡
		アクロスの春	渡辺 和雄	中央区天神1丁目
しぜん部門(6作品)	特選 (1作品)	晩秋	松山 正人	西油山中央公園
	入選 (2作品)	お堀の蓮	桐井 義夫	舞鶴公園
		早春の詩	二階堂 茂	室見川河畔
	佳作 (3作品)	うららか	加藤 栄子	小笹公園
		春の流れ	藤井 利成	海の中道海浜公園
		バラの隠れ家	宮原 秀子	自宅の庭
まちかど部門(6作品)	特選 (1作品)	花の小道	白川 雄二	天神中央公園
	入選 (2作品)	街の静かな公園	深町 安弘	中央区水上公園
		冬日のハス濠	松本 洋子	大手門堀端
	佳作 (3作品)	梅香る	大野 隆幸	舞鶴公園
		花雨	塚野 美津子	福岡城址 舞鶴公園
		夏気配	百瀬 可達	天神中央公園

第10回 花と緑のまちづくり賞 募集

「花と緑のまちづくり賞」は、福岡市内の花と緑によるまちづくりに貢献する緑の空間の事例を広く募集し、表彰するものです。

①応募対象

- 花と緑によるまちづくりに貢献している緑化空間
- 福岡市内であること
 - 外部に公開されている民有地
 - 過去受賞していないこと
 - 自薦・他薦は問いません。

②応募期間

平成24年6月30日まで

③応募方法

応募用紙に必要事項を記入し、写真とともに、下記申込み先まで郵送または持参して下さい。(応募票は協会ホームページからダウンロードできます。また、区役所、市民センターなどにも置いてあります。)協会ホームページの入力フォームから応募することもできます。

④審査

一次選考(書類、写真による選考)及び二次審査(現地審査)を行います。

選考基準

- 設計デザイン
- 緑化手法
- 周辺環境との調和
- 維持管理
- その他花と緑のまちづくりへの貢献

第13回 花と緑のまちかど写真コンテスト 募集

平成23年9月1日から平成24年8月31日までの1年間に福岡市内で撮影された、花と緑を題材とし、まちかどの花や緑、自然の中での遊びやくらしなどをテーマにした未発表の写真が対象です。

①部門

- くらし部門……………花や緑の中での遊びやくらし
 さくら部門……………さくらを題材にしたもの
 しぜん部門……………まちなかに息づく自然
 まちかど部門……………公園や街路樹のまちかどの花や緑

②応募期間

平成24年4月1日～8月31日まで

③応募方法

応募票に記入し、作品の裏面に貼付の上、郵送または持参して下さい。お一人3点まで応募できます。(応募票は協会ホームページからダウンロードできます。また、区役所、市民センターなどにも置いてあります。)

④応募上の注意

- サイズ/四切(ワイド四切も可)、デジカメ出力写真(A4)
 著作権/入賞作品の著作権は主催者に帰属します。
 賞に選ばれた場合は、フィルムや記録媒体を提出して下さい。
 肖像権/人物が写っている場合、撮影者の同意を得てください。
 肖像権侵害等の責任は負いかねます。

応募・問い合わせ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目3番26号
 (福岡タワーセンタービル2F)
 (公財) 福岡市緑のまちづくり協会みどり課
 企画推進係
 TEL:092-822-5832
 ホームページ <http://www.midorimachi.jp>



あなたの気持ちと活動が
花と緑のまちづくりを支えています。

募金のお願

福岡市都市緑化基金

福岡市都市緑化基金は、(公財)福岡市緑のまちづくり協会が運営母体となり、市民のみならず民間企業からいただいた寄付金や募金を積み立て、その利息を利用して、都市の緑化を進めるための基金です。



基金で取り組む事業

基金の運用利息を財源として民有地の緑化を推進するために、次の事業に取り組んでいます。

緑化助成事業 (民有地緑化の助成) <ul style="list-style-type: none">・屋上緑化・駐車場緑化・壁面緑化・生垣の設置	緑の活動支援事業 (緑化活動団体の支援) <ul style="list-style-type: none">・地域の森づくり助成・地域の花づくり助成	都市緑化の普及啓発 <ul style="list-style-type: none">・花と緑のまちづくり賞・「花と緑のまちかど」写真コンテスト・グリップキャンペーン・広報物発行等
---	--	---

募金協力のお願

基金の募金箱は次の場所に設置しております。皆様のご協力をお願いします。

- 福岡市植物園 (緑の相談所)
- 福岡市情報プラザ (福岡市役所1F)
- 福岡市役所緑化推進課 (福岡市役所4F)
- 東平尾公園
- 舞鶴公園
- 福岡市緑のまちづくり協会本部 (福岡タワーセンタービル2F)

基金だより

福岡市都市緑化基金にご協力いただき、ありがとうございました。基金の利息は、都市の緑化を進めるために生かされています。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

寄付された会社・団体

- ・コカ・コーラウエスト(株)様
- ・西日本新聞社様
- ・社会福祉法人 月隈保育園様
- ・オムロン(株)福岡営業所様
- ・(株)アド通QJ様

(平成23年2月～平成24年1月末現在、順不同、個人を除く)

グリップから都市緑化基金募金のお願

「福岡市都市緑化基金」に募金いただければ、グリップグッズをプレゼントすることができます。皆様のご協力をお願いいたします。

グリップグッズ取扱い

■ 常時取扱
(公財)福岡市緑のまちづくり協会

■ イベント
グリップキャンペーンメイン行事など

エコバック(小)(大)、ストラップ、メモ帳、シャープペン、ボールペン、タオルハンカチ

寄付金の税控除について

「福岡市都市緑化基金」に対する寄付には、所得税、福岡市の個人住民税で、寄付をした翌年度の寄付金税額控除の適用が受けられます。(手続きなど、詳しくは、お気軽にご相談ください)

募金についての
お申し込み・ご相談は

(公財)福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 企画推進係
TEL:092-822-5832

表紙の写真 舞鶴公園の桜と福岡市内の街並み

協会ホームページ

<http://www.midorimachi.jp>

(編集・発行)



公益財団法人

みどりをはぐくむパートナー

福岡市緑のまちづくり協会
Fukuoka City Greenery Association



〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目3番26号(福岡タワーセンタービル2F) TEL:092-822-5832 FAX:092-822-5848

R100

このみどりのたよりは福岡市都市緑化基金の運用基金により発行しております。

古紙配合率100%再生紙を使用しています。